

平成24年度乳がんマンモグラフィ検診精度管理調査票（検診受託医療機関） 参考①
43市町村より回答（177医療機関）

1 施設分類

病院 107機関
総合81機関／外科13機関／産婦人科3機関／その他10機関
診療所 53機関
検診専門機関 17機関

2 検診種別

1次検診のみ 52機関 / 1次検診および2次検診 125機関 /
読影のみ 該当なし

3 検診体制

施設内 168機関 / 検診車 9機関

【1】撮影機器について

① 撮影装置（一次検診及び精密検査で使用する撮影装置の総数207）の状況
アナログ装置 26台 / CR装置 143台 / DR装置 38台

②日本放射線学会の定める仕様基準の状況

アナログ装置

1次検診 (26台) 基準 24台 (92.3%) / 未基準 2台
精密検査 (11台) 基準 11台 (100%) / 未基準 0台

CR装置

1次検診 (139台) 基準 138台 (99.3%) / 未基準 1台
精密検査 (90台) 基準 89台 (98.9%) / 未基準 1台

DR装置

1次検診 (38台) 基準 38台 (100%) / 未基準 0台
精密検査 (28台) 基準 28台 (100%) / 未基準 0台

③マンモグラフィ検診施設画像認定の状況

アナログ装置

1次検診 (26台) 認定 18台 (69.2%) / 未認定 8台
精密検査 (11台) 認定 10台 (90.9%) / 未認定 1台

CR装置

1次検診 (139台) 認定 102台 (73.4%) / 未認定 37台
精密検査 (89台) 認定 62台 (69.7%) / 未認定 27台

DR装置

1次検診 (39台) 認定 30台 (76.9%) / 未認定 9台
精密検査 (29台) 認定 21台 (72.4%) / 未認定 8台

※1次及び2次検診で使用される機器について、検診実施機関として、マンモグラフィ画像認定取得のための努力が必要である。

【2】撮影状況（認定従事者）について

- ① 医師（総数 59名） A認定 25名 / B認定 22名 / その他（未認定） 12名
- ② 技師（総数 565名） A認定 323名 / B認定 162名 / その他（未認定） 80名

※ 医師・技師について、検診実施機関として、認定取得のための努力が必要である。

【3】読影状況について※読影センターに任せている医療機関は除く

① 読影映像（ハード・ソフトコピー）

CR	ハードコピー	91件
	ソフトコピー	32件（CRT 0件 / LCD 32件）
DR	ハードコピー	14件
	ソフトコピー	22件（CRT 1件 / LCD 21件）

② 読影映像における使用方法

CR	主にハードコピー	副にソフトコピーを使用	78件
	主にソフトコピー	副にハードコピーを使用	31件
DR	主にハードコピー	副にソフトコピーを使用	11件
	主にソフトコピー	副にハードコピーを使用	20件

③ ソフトコピー講習会

受講している 79機関

受講していない 77機関

④ モニタ解像度（メガ数）

1M 1件 / 2M 13件 / 3M 10件 / 5M 64件 / その他 2件

⑤ 高輝度シャーカステンの使用

使用 153機関 / 未使用 7機関 / その他 0機関

⑥ 読影医師（総数 424名）

A認定 161名 / B認定 242名 / その他（未認定） 21名

※9割を超える医師が認定資格を持っていたが、A認定に限定すると、全体の38.0%（前年度33.8%）にとどまっている。

⑦ 二重読影の実施

2回とも自施設 102機関／ 1回他施設 48機関／ 未実施 7機関／
その他4機関

(その他の回答)

- a 一部実施していないものあり
- b 大阪市乳がん検診のものは二重読影。他市については一部二重読影。
- c 大阪市乳がん検診のものは二重読影。個別検診は未実施。
- d 大阪市検診施設は第一次読影のみ行う。

※ 二重読影を実施していない機関に対して市町村から実施を要望しているに留まっている。

⑧ 認定者による二重読影

2回とも認定医 94機関 / うち1回認定医 16機関 / その他 1機関

(その他の回答)

- a 大阪市乳がん検診分は2人とも認定医、それ以外の分は1人認定医。

⑨ 視触診 - マンモグラフィ読影の同時実施

すべて同時 87機関／ 同時でない 61機関／ その他 11機関

(その他の回答)

- a 同時併用する場合としない場合がある(2件)
- b 同時併用であるが一部同時併用でない場合がある
- c 他施設読影医は、視触診をしていない
- d 読影医がする場合と、健診医(外科)がする場合がある
- e 他院からの依頼に関してはMMGのみ(5件)
- f 二次読影のみ同時併用

※ 同時併用の実施機関は全体の半数以上(前年度半数以下)であった。

⑩ 比較読影の実施

実施 150機関／ 未実施 10機関

⑪ 第三者による画像評価

実施 41機関 / 未実施 114機関 / その他 4機関

(その他の回答)

- a 定期的ではないが実施している(3件)
- b 施設認定を受ける前段階で実施している

【4】「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針一別紙(厚生労働省)」に記される、留意点に基づく視触診の実施 ※視触診機関に任せている医療機関は除く

実施 157機関 / 未実施 1機関 / その他 1機関

【5】精度管理 ※読影センターで判定している医療機関は除く

- ① 自施設での要精検率
把握 121機関 / 一部把握 21機関 / 未把握 16機関
- ② 自施設で要精検と判定された者の精検受診率
把握 95機関 / 一部把握 41機関 / 未把握 21機関
- ③ 自施設で要精検と判定され、他施設で精検を受診した者の精検受診率
把握 69機関 / 一部把握 54機関 / 未把握 35機関
- ④ 自施設で要精検と判定され、自施設で精検を受診した者の精検受診率
把握 103機関 / 一部把握 18機関 / 未把握 28機関
- ⑤ 自施設で要精検と判定された者の陽性反応適中度
把握 92機関 / 一部把握 37機関 / 未把握 29機関

※ 精度管理の各項目において自施設での要精検率以外は、把握している医療機関が少ない。
しかし、撮影のみを受託する医療機関もあり、数値だけでは把握しにくい部分も多い。

【6】一次検診機関への諮問 ※読影センターで判定している医療機関は除く

- ① 精密検査機関から精検結果の報告
報告あり 128機関
報告なし 32機関

【7】精密検査機関への諮問

- ① 一次検診機関からの資料（診療情報・MMG所見結果・MMG）提供
提供あり 110機関
提供なし 15機関
- ② 一次検診機関からの資料がMMGの施設
HCつき 59機関
CDつき 54機関

【8】機器等の管理

- ① 日常的、定期的管理
実施 112機関 / 一部実施 64機関 / 未実施 0機関
- ② 装置管理のため、所有する機器等
ACR認定ファントム172件 / JCS推奨ステップファントム135件 / 濃度計157件 / 線量計27件 / センシトメーター34件 / AEC調整ファントム48件 / 乳房圧迫圧力計7件 / メッシュ30件 / その他17件

(その他の回答)

- ・輝度計 (シャウカステン輝度計・照度計)
- ・胸壁欠損試験ファントム
- ・焦点の性能評価ファントム (C I R S M o d e l 1 6 A)
- ・X線テストチャート
- ・チャート (マンモ用高解像度チャート)
- ・高純度P・L三板
- ・ワンショットファントム
- ・均一性ファントム
- ・DMQCファントム
- ・QAファントム MODEL 011A
- ・TM-5
- ・AL板
- ・SCTF
- ・1SHOP, PHANCOU
- ・Professional版 (精中委)
- ・圧力計の代わりに体重計

【9】マニュアルに基づく所見用紙の使用

①視触診の所見用紙は「マンモグラフィによる乳がん検診の手引き-精度管理マニュアル」に基づいたものを使用

使用 145機関 / 未使用 13機関 / その他 1機関

(その他の回答) 視触診は他院にお願いをしている

②マンモグラフィ検診の所見用紙は「マンモグラフィによる乳がん検診の手引き-精度管理マニュアル」に基づいたものを使用

使用 150機関 / 未使用 9機関